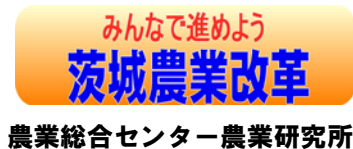


# 水稻新品種「ふくまる」の高品質

## 安定多収栽培法(品種登録出願公表中)



大粒かつ良好な外観品質と食味を兼ね備えた早生の水稲新品種「ふくまる」の普及拡大を図るため、高品質かつ安定多収を得ることが出来る栽培法を確立しました。

### 「ふくまる」の安定多収を得るための施肥量

「ふくまる」栽培では、「コシヒカリ」の収量水準と総施肥窒素量を目安として増肥します。

「コシヒカリ」の実収量が480~510kg/10a程度の場合、総窒素量で「コシヒカリ」の施肥量に対し3~4kg/10aの増肥を行うことで、安定多収が得られます(表1)。

表1 「ふくまる」及び「コシヒカリ」の総窒素量と収量

品種名	平均値		
	総窒素量 (kg/10a)	倒伏 程度	実収量 (kg/10a)
ふくまる	7.8	0.4	603
コシヒカリ	3.8	0.6	500
差	4.0	-0.2	103

注)平成24年度現地試験の平均を示す(10ヶ所)

総窒素量: ふくまるは基肥+追肥の合計窒素量

コシヒカリは基肥+追肥の合計窒素量もしくは全量基肥肥料の窒素量

倒伏程度: 0(無)、1(微)、2(少)、3(中)、4(多)、5(甚)の6段階評価

病害により減収した現地1圃場を除いた。

### 「ふくまる」の安定多収を得るための生育の指標

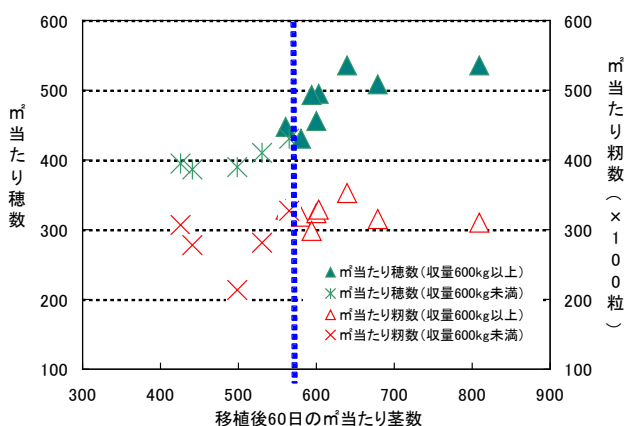


図1 移植後60日時点の㎡当たり茎数、穂数、籾数及び収量との関係

「ふくまる」は、移植後60日時点の㎡当たり茎数を580本以上とすることで、安定多収を得るための指標である㎡当たり穂数430本以上、㎡当たり籾数31,000粒を確保することができます(図1)。



図2 移植後60日頃の「ふくまる」

### 「ふくまる」の収穫適期における帯緑籾率は15~6%

収穫適期は、帯緑籾率15%~6% (出穂期後37日~40日、出穂後積算平均気温966℃~1,044℃)の時点です。屑米の発生が少なく、整粒歩合が最も高くなり、安定して検査等級1等が得られます。



図3 収穫時期の「ふくまる」

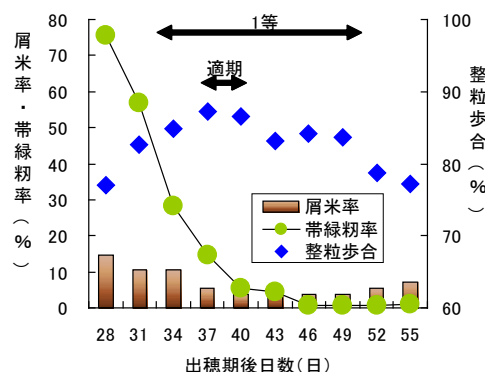


図4 出穂後日数と帯緑籾率・収穫日と屑米率及び整粒歩合との関係

<問い合わせ先: 農業研究所 作物研究室 Tel 029(239)7212>